

室 根



室根からの参加者も元気にゴール

第11回なまずの里マラソン

4月2日、埼玉県吉川市で行われたなまずの里マラソンに、室根町から3人が選手として参加しました。

同マラソンは吉川市市政施行を記念して開催され、今回で11回目。年々参加者が増加し、今回は約5,000人が参加して盛大に開催されました。戸張吉川市長も5キロの部に参加し、大会を盛り上げました。

参加した小山誠一君(室根中3年)、小野寺達也君(室根中3年)、鈴木光博さん(36)は「初めて参加したが、自己ベスト記録を出せた」「コンディションが良く気持ちよく走ることができた」「ハーフマラソンに参加し、吉川の景観を見ながら、完走できた」と桜満開の中のマラソンを満喫しました。



再会を約束したホームステイ参加者

吉川市へ小学生がホームステイ

3月24日から3泊4日の日程で埼玉県吉川市へのホームステイ交流が行われ、浜横沢小・釘子小の3年から6年の児童6人が吉川市の受け入れ家庭との交流を深めました。

天候にも恵まれ、児童は、受け入れ家庭の子どもたちと上野動物園や東京タワー、ディズニーランドなど楽しい4日間を過ごしてきました。

27日に行われた解散式で児童を代表し、佐藤美和さん(浜横沢小5年)が「貴重な経験ができた。これからの生活に生かしていきたい」と小山地域自治区長に報告。不安と期待を胸に出発した児童は受け入れ家庭の温かさと都会の暮らしを体験し、一回り大きく成長して帰ってきました。



最後の在館児童と保護者

田茂木児童館が閉館

3月26日、室根町田茂木児童館(小山較輔館長、児童5人)で閉館式が行われ、児童・保護者約30人が出席しました。

同児童館は昭和43年に田茂木地区の保育施設として設置され、以来38年間に349人が在館しました。しかし近年の少子化で児童数が減少したことから、平成17年度で閉館することになりました。

閉館にあたり、小山館長は「4月から子どものはしゃぐ声が聞けなくなるのは寂しい。多くの関係者に感謝し、施設が今後も有効利用されることを願う」とあいさつ。児童が「思い出のアルバム」を元気良く歌い、38年の歴史に幕を閉じました。



テープカットで開所を祝う関係者

生活支援ハウスオープン

4月3日、生活支援ハウス「むろね苑」開所セレモニーが行われ、指定管理者である社会福祉法人室根孝養会の小山恭平理事長が「介護福祉の充実に努め、誰もが老後を明るく過ごせるよう職員一丸となって精進する」とあいさつ。関係者全員でテープカットをしてオープンを祝いました。

孝養ハイツに隣接する場所に建設されたむろね苑は、高齢などにより自宅で生活することに不安のある人に一定期間の住居を提供する施設で、木造平屋建て、床面積は397平方メートル。総事業費は1億1762万円です。単身者4人、夫婦2組の計8人が入居できます。利用期間は原則として1年間となっています。